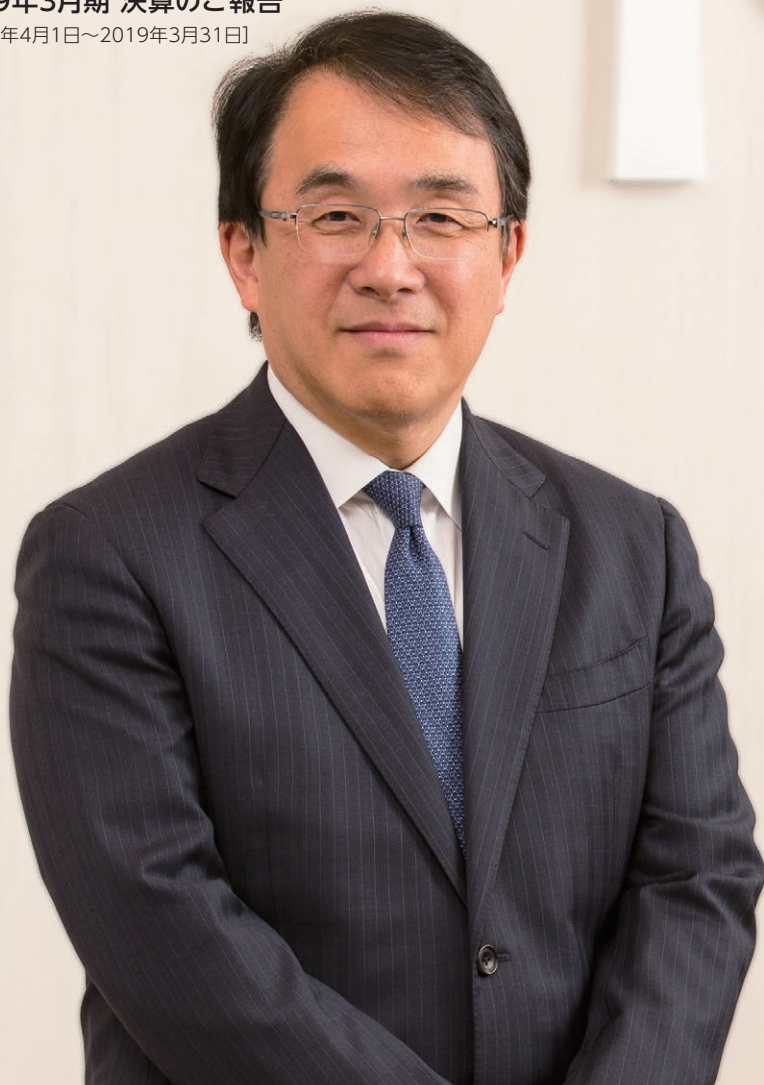


2019年3月期 決算のご報告
[2018年4月1日～2019年3月31日]

野村総合研究所
Nomura Research Institute



株主の皆様へ	1
連結業績ハイライト	5
2019年3月期の主なトピックス	6
お知らせ／株主メモ	8

株主の皆様へ

2019年3月期は売上高、営業利益ともに、 過去最高を達成しました。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

米国を起点とした貿易摩擦問題の影響などが懸念されつつも、2019年3月期の日本経済は緩やかな回復基調が続き、企業の情報システム投資は堅調に推移しました。このような環境の中、NRIグループのコンサルティングやITサービスに対する需要は堅調に推移しました。

国内事業では、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)、クラウドなどの新しい情報技術を活用してビジネスモデルを変革する「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」の関連事業が大きく拡大しました。DXの取組みを進める企業へのコンサルティングやITサービスの提供に加え、優れた技術や顧客基盤を有する企業と合併会社を設立するなど、DXの領域での事業基盤づくりを進めました。

海外事業においては、豪州グループ会社のASGが政府機関から大型案件を獲得するなど、豪州を中心に事業の拡大を進め、海外売上高は売上高の10%超を占める規模に拡大しました。

このような取組みの結果、2019年3月期の売上高は5,012億円(前期比6.3%増)、営業利益は714億円(同9.7%増)といずれも過去最高を更新しました。親会社株主に帰属する当期純利益は509億円(同7.6%減)で、前期に大きな投資有価証券売却益を計上した反動により減少しました。

3か年の中期経営計画の目標を達成しました。

2019年3月末にNRIグループは、2016年4月にスタートした3か年の中期経営計画のゴールを迎えました。

3年間を通して、NRIグループの得意領域である共同利用型サービスのシェア拡大を着実に進める一方、システム開発体制の見直しなど生産性の向上に取り組む、予期せぬ大型不採算案件の発生をほぼ抑制することができました。加えて、成長分野であるDXの領域での実績づくりが着実に進みました。グローバル事業では、豪州・北米でM&Aなどを進め、事業基盤を構築することができました。

このような取組みの成果として、業界平均を上回る成長を継続し、高い収益力を確保しています。当初の目標であった売上高5,000億円、営業利益700億円を無

事に達成することができました。

「Vision2022」の達成を目指し、お客様の期待に応えていきます。そして、持続的な未来社会づくりに貢献していきます。

昨今、社会のデジタル化が急速に進む中、国内企業の多くはDXへの対応に悩みを抱えています。DXの必要性を理解しながらも既存事業への悪影響を懸念して必要な取組みに踏み出せないケースや、ITに詳しい社内人材が不足して十分な体制が構築できないケースが見受けられます。さらに多くの企業が、ブラックボックス化した古くて遅い基幹システムを抱えており、新しい情報技術を活用したDXの推進を一層難しくしています。こうした状況の中、コンサルティングとITソリューションが協働して解決策を導く「コンソリューション」に強みを持つNRIグループへ寄せられる期待は一層高まるものと考えます。こうしたお客様の期待に応えていきたいと思えます。

2015年4月にNRIは、8か年の長期経営ビジョン「Vision2022」を掲げました。50年以上の歴史の中で培ってきたNRIグループの強みを磨きつつ、成長戦略を推進することで、2023年3月期に営業利益1,000億円などの目標達成を目指しています。「Vision2022」のビジョン・ステートメント“Share the Next Values!”には、お客様との「価値共創」——価値を共に創造する——を通じて、NRIグループ自身が成長していくとともに、

中期経営計画(2017年3月期~2019年3月期)の主な成果

	2016年3月期 実績		2019年3月期(最終年度) 実績
売上高	4,214億円		5,012億円 +19%
海外売上高	146億円		530億円 3.6倍
営業利益	582億円		714億円 +23%
営業利益率	13.8%		14.3% +0.4pt
ROE	10.6%		12.3% +1.6pt

NRIグループが持続可能な未来社会づくりに貢献していく姿を目指す、という思いが込められています。NRIの強みを活かすことができる3つの社会価値を定義し、これらの価値の共創に貢献できる経営を目指していきたいと考えています。



NRIらしい3つの社会価値



新たな価値創造を通じた
活力ある未来社会の共創

未来に向けて新たな価値が次々と生み出され、すべての生活者がそれらを楽しむことができる、豊かで快適な社会をめざす



社会資源の有効活用を通じた
最適社会の共創

大切な社会資源(人財・モノ・カネ・知的資産)を有効活用する力強い産業を育み、あらゆるひとが暮らしやすい社会をめざす



社会インフラの高度化を通じた
安全安心社会の共創

情報システムをはじめとする社会インフラの守りを固め、事故や災害等にも強い、安全安心な社会をめざす

新たな中期経営計画をスタート。DXの領域での事業拡大を柱に、成長戦略を加速します。

「Vision2022」の実現に向けて、その最終年度をゴールとする新しい4か年の中期経営計画を2019年4月からスタートさせています。その中では、売上高6,700億円以上、営業利益1,000億円、海外売上高1,000億円などの数値目標を掲げています。目標の達成に向けて事業の継続的な拡大を実現するためには、DXの領域で新たなビジネスを創出し、お客様から信頼されるパートナーとしての地位を確立する必要があります。また、グローバル化を加速するとともに、既存の主要ビジネスの高度化や取引の大型化を通じて競争優位性をさらに高めていく必要があります。

新しい中期経営計画では、以下の3つのテーマを成長戦略として設定し、事業の継続的な拡大を目指していきます。

①DX戦略:テクノロジーを活用した顧客の ビジネスモデル/プロセス変革

お客様のビジネスモデル/プロセスの変革のため、新しいテクノロジーを活用して、戦略策定からITソリューションの提供まで総合的に支援します。NRIグループの強みであるコンサルティングとITソリューションの連携をさらに進めるとともに、外部の知的資産の活用も強化し、お客様のイノベーションを支援する価値共創パートナーとして継続的にサポートします。

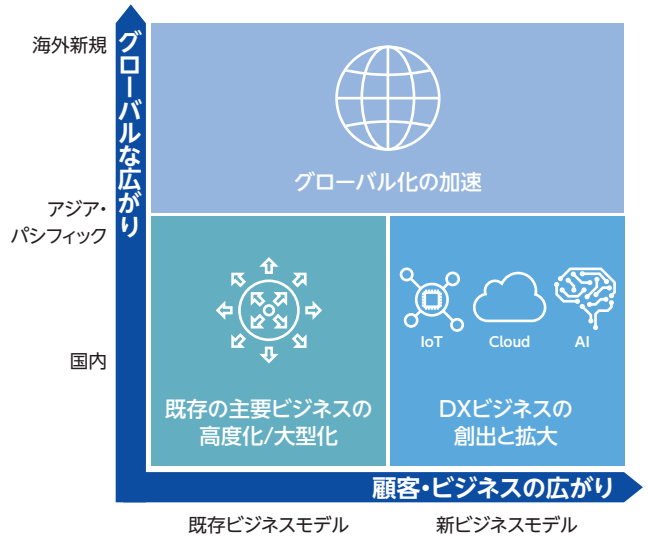
②グローバル戦略:豪州・北米での外部成長を軸に、事業基盤を拡大

豪州と北米を主たる注力地域として、M&Aなどによる外部成長を軸とした事業基盤の拡大を進めます。M&Aの投資規模は、2020年3月期から2023年3月期までの4年間で、500億円以上を想定しています。

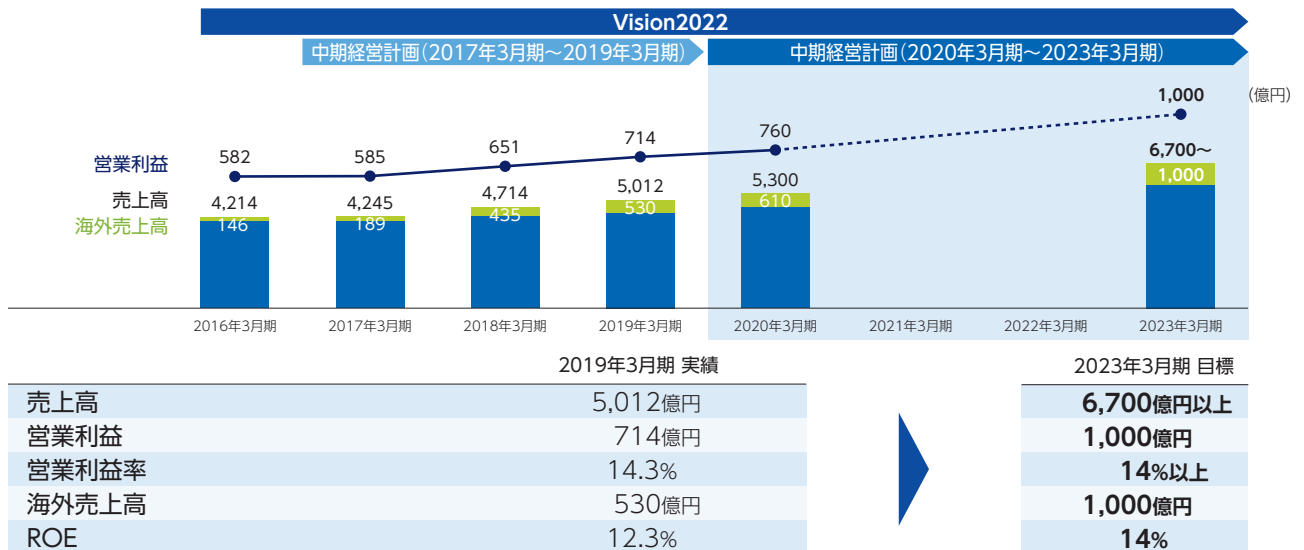
③人材・リソース戦略:成長戦略を支える人材・リソースの拡充・高度化

DX戦略やグローバル戦略を推進する人材の確保のため、新卒及びキャリア採用の強化と、技術・ノウハウを保有する企業との関係強化に取り組めます。さらに、ダイバーシティの推進と多様な働き方の推進を通じた社員のさらなる活躍促進も進めていきます。

事業展開イメージ



中期経営計画の数値目標



2019年7月1日付で、「1対3」の株式分割を実施します。

2019年7月1日付で、1株につき3株の割合で株式分割を行う予定です。売買単位(100株)当たりの金額

株式分割の概要

株式分割の方法	株式1株につき3株の割合で分割
株式分割前の当社発行済株式総数	251,260,000株
株式分割後の当社発行済株式総数	753,780,000株 (分割により増加する株式数:502,520,000株)
基準日	2019年6月30日
効力発行日	2019年7月1日

が小さくなることで、より多くの投資家の皆様にとって、当社の株式を保有いただき易くなると考えております。

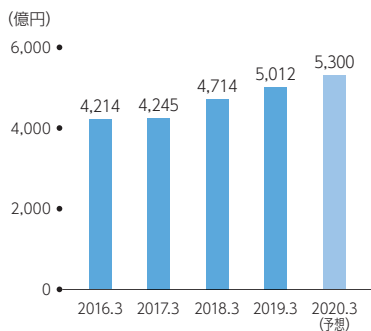
株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2019年5月
代表取締役社長

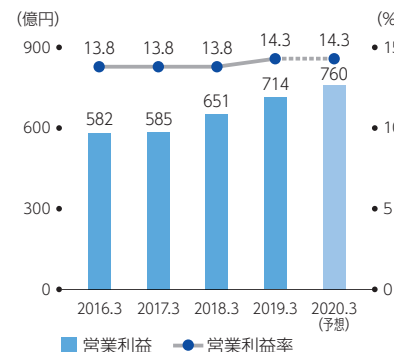
此本 臣吾

連結業績ハイライト

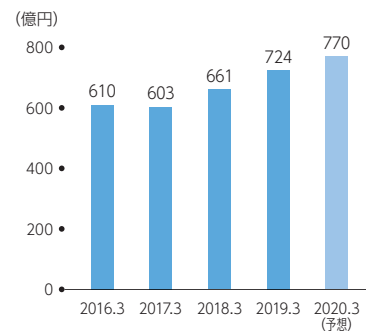
売上高



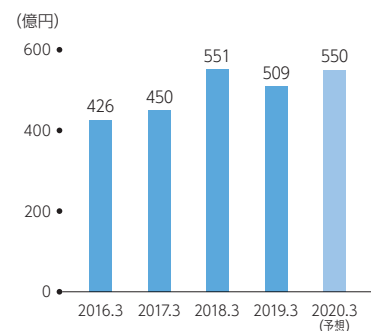
営業利益／営業利益率



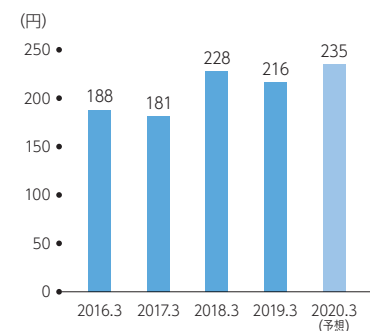
経常利益



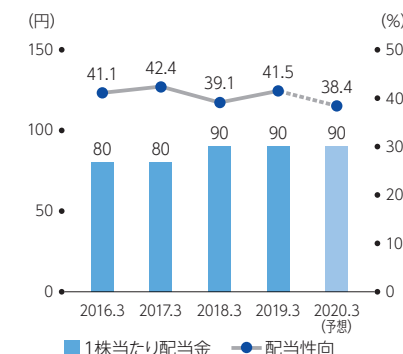
親会社株主に帰属する当期純利益



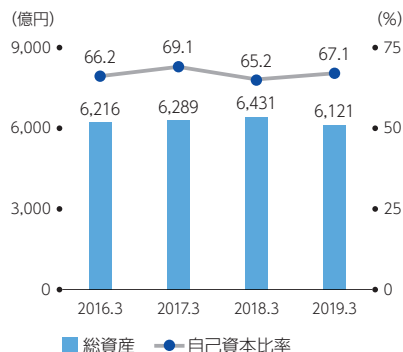
1株当たり当期純利益 (EPS)



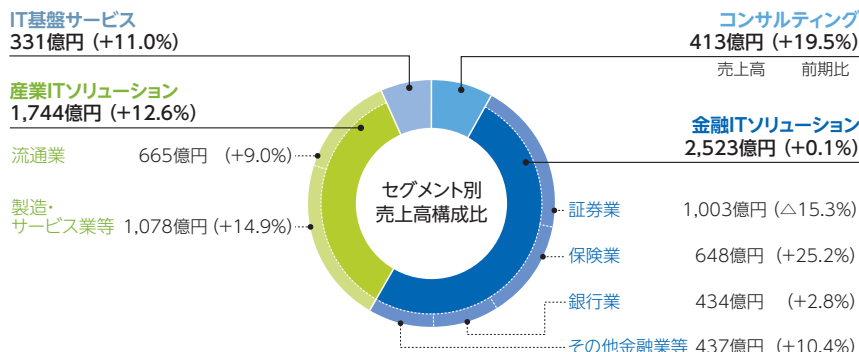
1株当たり配当金／配当性向



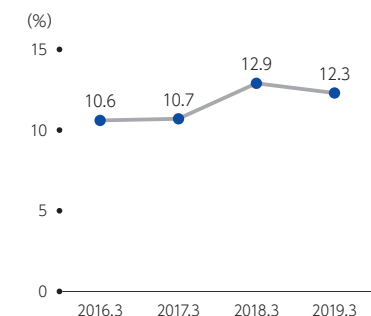
総資産／自己資本比率



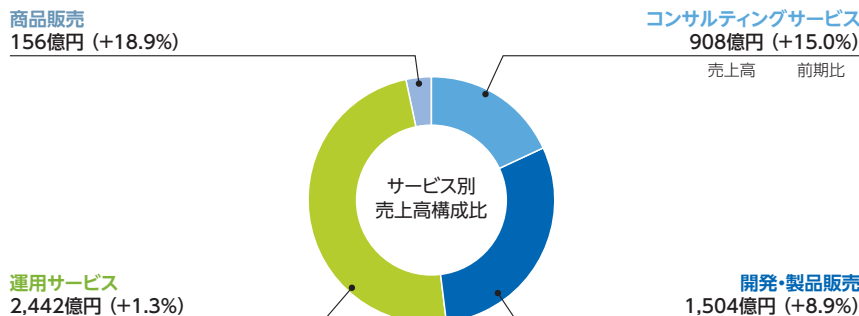
セグメント別外部売上高 (前期比) (2019年3月期)



ROE



サービス別売上高 (前期比) (2019年3月期)



- 記載金額は、億円未満(1株当たり当期純利益は円未満)を切捨てて表示しています。
- 1株当たり当期純利益及び1株当たり配当金は、株式分割(2015年10月1日付及び2017年1月1日付)を遡及修正していない数値を表示しています。
- 2020年3月期(予想)の1株当たり当期純利益及び1株当たり配当金は、2019年7月1日付で予定している株式分割を考慮しない数値を表示しています。
- 配当性向は、NRIグループ社員持株会専用信託に対する配当金を含めて計算しています。
- 総資産／自己資本比率については、2019年3月期において、会計基準の改正への対応等を実施しており、2018年3月期については遡及適用後の数値を表示しています。
- 業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。したがって、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により、実際の売上高、利益及び配当金は、当該予想と異なる結果となる可能性があります。

2019年3月期の主なトピックス

2018年
4月



豪州子会社ASGが政府機関から 大型案件を受注

豪州のAirservices Australia (航空管制機関) に対し、安全なクラウド環境を提供する契約を締結しました。



譲渡制限付株式報酬制度の導入

当社の取締役等を対象*に、株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的に、第三者への譲渡等の制限を柱とした新たな株式報酬制度の導入を決定しました。

※対象者は取締役(社外取締役を除く)と執行役員等

5月



DMG森精機と 合併会社「TECHNIUM」を設立

機械・加工・ソフトウェアの高度な技術を持つDMG森精機株式会社と連携し、デジタル技術を用いて、製造業のより高い生産性を実現していきます。

TECHNIUM



人工知能(AI)への取組みが評価され、 米国でアワードを受賞

米国で広く認知された金融専門メディアFTFが主宰する、FTFニュース・テクノロジー・イノベーションアワード2018(AI部門)で、AIを用いたソリューション実績が評価されました。



6月



整備が必要な**保育の受け皿**の 量を提言

政府の女性就業率目標を達成するために、追加で27.9万人分の保育の受け皿が必要と推計しました。

7月



世界的なESG投資指数 「FTSE4Good Index Series」の構成銘柄に 13年連続で選定



FTSE4Good

8月



野村ホールディングスと、 合併会社「NVANTAGE」をインドに設立

グローバル金融機関向けに、システムの開発・維持・管理及びBPOサービスを提供していきます。



NVANTAGEオフィスでの記念写真

9月



グローバル事業の拡大に向けて 新規格付を取得

S&Pグローバル・レーティング・ジャパンより、「A」の格付を取得しました。



世界的なESG投資指標 「DJSI World」の構成銘柄に初選出

世界の主要企業の中から、持続可能性に優れた企業として、「Dow Jones Sustainability World Index (DJSI World)」の構成銘柄に選定されました。

MEMBER OF

**Dow Jones
Sustainability Indices**

In Collaboration with RobecoSAM



デンソーと NRIセキュアテクノロジーズが 合併会社「NDIAS」設立で合意

急速にデジタル化の進む自動車産業向けに、サイバーセキュリティ事業を展開し、安心・安全なモビリティ社会の実現を目指します。

DENSO
Crafting the Core

NRI SECURE

10月



ディスクロージャー 優良企業賞 (コンピューターソフト 部門)を2年連続して受賞

ディスクロージャーの充実に向けた取り組みが、業界の最新状況に詳しい証券アナリストから高く評価されました。

ディスクロージャー
2018年度 優良企業



SAI 日本証券アナリスト協会
Securities Analysts Association of Japan

11月



NRIセキュアテクノロジーズが 「ブロックチェーン・セキュリティ・ モニタリング」サービスを開始

ブロックチェーン技術を利用したビジネスの一層の発展に、セキュリティ面から貢献していきます。



自己株式を取得

2018年5月16日～11月15日の期間で、約300億円の自己株式を取得しました。



米国子会社カッター・アソシエイツが、 富裕層向け金融サービスの リサーチ力を強化

富裕層向け金融サービスに特化したスイスのリサーチ会社であるMyPrivateBanking GmbHの事業資産を買収し、過去の分析レポートや知見、経験豊富なアナリストチームを獲得しました。

12月



2017年の富裕層の世帯数と 金融資産保有額を推計

純金融資産が1億円以上の日本の富裕層は127万世帯、純金融資産総額は299兆円と推計され、いずれも前回の推計(2015年)より増加しました。



「NRI学生小論文コンテスト2018」の 受賞者が決定



NRI学生小論文コンテスト
2018受賞者

2019年
1月

「WBCSD(持続可能な開発のための 世界経済人会議)」に加盟

世界のリーディングカンパニーが参加するWBCSDでの調査・提言活動を通じて、持続可能な未来社会の実現に向けて取り組んでいきます。



2月



日本航空と合併会社「JALデジタル エクスペリエンス」を設立

「どこかにマイル」サービスなどを過去に共同開発した経験・ノウハウをさらに活かし、デジタル技術を用いた革新的なサービスの開発を加速していきます。



「健康経営優良法人(ホワイト500)」に 3年連続で認定



人工知能を使ったソリューション 「TRAINA/トレイナ」が、 三井住友海上あいおい生命に導入

音声認識技術と人工知能(AI)の活用で、顧客応対業務の効率化と対応品質の向上を見込んでいます。



3月



女性活躍推進に優れた上場企業として、 「なでしこ銘柄」に3年連続で選定



NRIグループ社員による出版物のご紹介



世界経済、最後の審判
破綻にどう備えるか

毎日新聞出版 発行
(2019年3月15日)

金融緩和と政治が、債務とフィンテックで脆弱化したシステムの崩壊をもたらす。元日銀審議委員が読み解く、世界経済の行方。



ITロードマップ 2019年版
情報通信技術は5年後
こう変わる!

東洋経済新報社 発行
(2019年3月21日)

5G、情報銀行、量子コンピュータ、脅威インテリジェンス……人工知能 (AI) の活動領域が拡大する中で、ビジネス、働き方はどう変わるのか?

統合レポート2018が、日本経済新聞社が主催する「第21回日経アニュアルリポートアワード優秀賞」を初めて受賞しました。

(2019年2月27日)

統合レポートとは、財務情報に加え、経営戦略やESGなどの非財務情報を包括的に情報開示して事業活動全体を概観できるレポートです。受賞理由として、「NRIの取組みが簡潔にまとめられた、オーソドックスな好レポート」との評価を受けました。



<https://www.nri.com/jp/ir/report>



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
公告方法	電子公告(公告掲載URL http://pn.nri.com/) ただし、事故その他のやむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
配当受領株主 確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人 及び特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵送先) (電話照会先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
証券コード	4307

株式に関するお問い合わせ

- 届出住所・姓名などのご変更
- 配当金の受領方法・振込先のご変更
- 単元未満株式の買取請求



口座を開設されている証券会社へ
お問い合わせください。

- 特別口座に関するご照会
- 郵送物の発送と返戻に関するご照会
- 支払期間経過後の配当金に関するご照会
- その他株式事務に関する一般的なご照会



三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部へ
お問い合わせください。
電話照会先は左記をご参照ください。

株式会社野村総合研究所

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-2
大手町フィナンシャルシティ グランキューブ
TEL 03-5533-2111 <https://www.nri.com/jp/>